

# 監査の四季

第9回  
 鯖江市代表監査委員  
 川中清司

## ゴミを活かす

菊が終わって真っ赤なポインセチアがジングルベルに乗って登場すると、日暮れもぐんと早くなる。はや12月、大掃除の季節です。

ところで、鯖江市のゴミは毎年増え続けて、年24,500t、市民一人当たりにして毎日1kgにもなります。業者に払う収集委託料は約3億円です。

ゴミを減らし、資源として活かすことが大きな課題です。



ゴミの分別に協力する子どもたち

鯖江市では平成11年10月に環境ISO14001を取得し、毎年、目標に向かって活動しています。

市役所の電気はムダなくこまめに消すなど努力して、3年間で約1500万円を節減、コピー用紙は70万枚も減らしました。使用済みの事務用紙、新聞・雑誌を分類ボックスに入れ、リサイクルに回しています。

市民の協力でゴミの分別収集が進み、資源に回した量はこの10年で約3倍に増え、昨年度で4千tを超えました。

市内各地区で生ゴミを堆肥に活かす運動が始まり、文化の館では「環境図書コーナー」を設けて関連の木をそろえ、神明幼稚園では草木に名札をつけて自然に親しませるなど、環境にやさしいまちづくりが静かに進んでいます。

環境問題の取り組みは、みんなの生活や仕事の仕方を変えて、ムダを無くすことから始まります。